諸家系譜

位一

と　小笠原

太政官文庫
和書門
類 三三六四九
號
函 二二五
架 冊

共二百廿五冊
共八十五

內閣文庫
和書
類 三三六四九
號
冊 二二五
架 三五一函 一五

內閣文庫
番號 和 32649
冊數 225 (79)
函號 156 23

国立公文書館
National Archives of Japan

家譜

寄合
小笠原鍈之助

私家譜之儀今般御尋ニ付右文寶鑒
仕候先達而差出候家譜出情有之候得共追々
簡略差出候ニ付古文書同様旧記並ニ不
有之候今般右御門跡家譜差出候ニ付此方ニ而
入用ニ付御書付ヲ以相仕候年号之顕候ニ付差出候
先達而差出候家譜之通差出候様右之
別紙書之ニ付長高之以儀ニ付有之候右之段可然
中上方へ差遣し簡略之事札仕候様申上候以上

六月

寅日

小笠原張之助

私家譜之内先達而書上候家紋水菊紋之
理ニ付此節委細相知申出候処先年相改候ニ付此段
申上候以上

九月

小笠原張之助

小笠原家御尋之譜之儀同様之趣ニ付略写
並
宜通用

清和源氏　出ス系

加々美次郎遠光ヨリ十六代　伴野長之

貞経（サダツネ）
信州伴野ニ住ス

嫡男
長高
初名喜代九郎　太郎助
従五位下　大和守ヲ見　伴野高

明和七庚寅年　九月十五日初御目見　大阪在
居ル後彦右衛門長高ト号シ後小笠原　太郎助ト称シ

叙爵仕従五位下大和守ト称シ又伴野高ニ改
文化二乙丑年正月十一日　御小性組ヘ　父貞経弥
花仕
長高實ハ同貞経妻伯母女称孔化長
高ヲ女[illegible]父貞経同国ノ住人海野伊勢守妻
高女再嫁仕次男長称出生右後継母悪人ニテ元
長高ヲ貞経ニ讒シ次男長称ヲ家督ニ仕度所
貞経義弟中村ハ之ヲ聞次深ク悟リ貞経ヲ元
長高ヲ継母ト共ニ殺害セントス依テ安心
本妻ノ継母長高ヲ毒殺セント仕候ニ付右ノ由事
承知之年　正月十日密ニ信州ヲ立退候

州ニ系戦備敷ク處ニ千年ニ於テ在テ於テ

佐竹高（タカ）方窮居仕又遠州城東（トウ）郡（ホウ）ニ付又笹（ササ）下ニ於

テ居ヲ滞留仕又同国ニ移リ住ミ

其後ニ住居仕リ居候処ニ不足ニ付太鎮ニ居

ニ於テ御奉公致（ニヒヤクヤナト）郡ヨリ此後ニ於テ城東郡ニ住居ス百余

年ニ於テ御奉公仕ル此地ニ居住致候ニ付同シク其子

掛（挂）錦（継）実方ニテ中務ト申ス大河内殿家ニ属シ

其後山居致候羽衣ヲ致シ居ル仕候（又ハ之ヲ称ス）

ニ住ミ在ル（以下略）

四十二（？）

長棟（ムネ）　初名豊松丸　五郎　従五位下　大膳大夫

修理大夫　住居

三十二（？）

母　海野源三郎　幸高女

右長高ハ安貝野ヲ和ス後ニ御源忠ニ立退

依テ此兼長称家督相続候処其大膳大夫

両家ニ相続ニ於テ

三十三

定政　左衛門　左近衛尉　法名總軒

母　同上

四十

鏡最（トシサイ）　出家　永福寺

三省軒ト称ス　当時禅寺滞留ス前住也

曾

長利　孫次郎　民部少輔　法名吾悦

母同上

女子　三村某妻

母同上

春義　初名豊千代　兵部少輔

従五位下

妻　今川氏親女

去別山岩館流羽之鎮ニ生　幼名某豊千代丸

元服于某太郎　長氏　叙爵之時也

但是所城東郷新之内ニ當村笠原氏者也、出生之所中之地名ヲ以テ号ス故ニ此姓也、始祖ノ後名ヲ改テ称ス、自然ノ地名ニ由来、出生東氏出生之所ニテ下地笠原氏上下一家、省之笠原氏出生之所ヲ中之以テ号ス

宗長

但一私某譜ノ及同姓之ノ譜ノ内ニ後世ヲ長為テ千代ノ相員宗ノ文後世ヲ名ヲ以長ト中々モ某宗名宗長ト称ス同名也、是以宗長ト称シ後某ニ於テ中ニ某

主家長保ヲ同姓清有ニ奪ハル不和ニ及
其弟嶋ラ助ヲ成ス乃死ス

長治

女子
信濃妻

清有

清政

幸秋
女子
某妻

嘉以男
清次
孫安房守信下日置子此

三男
氏朝

清忠

四男
朝宗

豊高
男

宗次

嫡
朝定　孫雲庵ト號ス同氏男ス

嫡
氏清　初名豊蔵 彦右衛門
　　　北条氏 従五位下 壱岐守 嫡男
母　今川氏親女
叙爵氏治ニ依
氏清男子ナキ
[illegible]
　　　元和五年四月[illegible]

次
綱氏　嫡男

三
義頼　初名豊松 長右衛門 従五位下
母　今川氏親女
叙爵実名改 元禄三甲年正月 御目見 高
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此節ニ而加藤ハ飛騨守方ニ而罷在候由申上　上意

人質を預り候加藤ハ其節別ニ同姓蔵宗を

差上候由加藤主膳殿ゟ被申候而同様之騒城中ニ

人質ニ相成候事ニ付[illegible]相済[illegible]

[illegible]加藤ハ[illegible]人質を

[illegible]和睦之[illegible]城ヘ[illegible]相済候[illegible]を

[illegible]勝成方ゟ[illegible]勝成方ヨリ[illegible]城中ニ人

質ニ相[illegible]城内[illegible]相[illegible]

[illegible]人質[illegible]高[illegible]

[illegible]同姓[illegible]

人質ニ差上[illegible]同[illegible]

減

[illegible]人質[illegible]城[illegible]

[illegible]合[illegible]

人質[illegible]

[illegible]同様[illegible]

[illegible]

[illegible]一同[illegible]

[illegible]

同　[illegible]

同　長助　[illegible]

清貞女聟
同　与左衛門　清有

同人聟
同　宮島九郎　清時

宮内甥
同　伊右衛門　真原

同　源太郎　正太

同　源右衛門　元清

元清男
同　清十郎　喜政

宮内男
同　喜兵衛　清忠

宗喜男
同　与兵衛　澄高

同男
同　喜十郎　宗賢（カタ）

高松　源右衛門　長一（カツ）

門宗　友左衛門　俊武

渡辺　源右衛門　勝吉

三井　源左衛門　吉勝

福島　五郎八　某

野々山　七右衛門　正高

佐治　平右衛門　○清

同　清三郎　某

安西　道栄　某

自給　加賀　某

同　半助　某

福嶋　十郎右衛門　政村

光宗　河内守　長庵

右者続キ為御用取扱候ニ付同日壱人ニ付

鍛冶　加賀　某
桜井　雅斎
林　平六
中山　兵部　助
渡辺　金之丞
能勢　伊助
戸川　主水
杉浦　結兵衛
武藤　源左衛門　隠
池田　杉平　某

仙石　大内　某
伊達　藤十郎　某
鈴木　修大夫　某
荒川　平三郎　某
伊達　金之丞　某
戸塚　平　某
小笠原　三右衛門　某
同　式部　某
海福　左衛門　某
同　直親助　某
大谷　新次郎　某

名把　六々文　某
牧　伊兵衛　某
戸塚　又左衛門　某
吉永　又　兵衛　某
梶川　○　兵衛　某

右ホし岩て民部ら一同[illegible]ニ[illegible]又[illegible]
可[illegible]日[illegible]し人ハ三九ト[illegible]互ニ[illegible]と[illegible]
既ニ同士[illegible]ノ[illegible]時[illegible]民部を[illegible]と
[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]中[illegible]
阿[illegible]吉[illegible]田[illegible]来[illegible]中[illegible]城[illegible]
民部し[illegible]せ[illegible]

一
梶原様ニ一[illegible]し[illegible]約し[illegible]理を[illegible]事[illegible]戦
[illegible]又一方し[illegible]城を民部[illegible]を[illegible]一[illegible]ハ
[illegible]同士[illegible]大
梶原様[illegible]ニ[illegible]安[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]
我[illegible]人[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]双方を[illegible]田
[illegible]和[illegible]細[illegible]を
[illegible]外同[illegible]一[illegible]し[illegible]ハ子迷[illegible]ハ[illegible]
梶原様ハ[illegible]中[illegible]城を民部[illegible]一味[illegible]
[illegible]国[illegible]代[illegible]ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]何し[illegible]中[illegible]安[illegible]

右馬出雲守河内守白旗半之助採深れし七年て
ありし我田家ニ関与し候ニ付委細遂賞歎甚
九郎二右衛門之候、其人接使ニ切勝所付
足ともあり、左右これを深れ候ニ而繼門母
排好中ニ伺礼ありし候也
将段様之ニ悦ひし情乃ありし候不得も為こと一承ニ乗ねる
之ハ御筋を排ひ事れて毎関ニ於し候て其ニ近き勤家
しかも於し候得も不仕候也
三是之年し秋写仏像し蔵を書紙ニ奈良
如何也原高之ニ而血之刀城東郎深羽之兵
其ちし兵衛 [illegible] 上

但深羽之兵八右衛門出雲守之内之延書傳
城家ト但馬守付當文書記乃忌其ちし兵衛
何分之御勝て あわす者
同年し免干有十日之年し老筆我を和吉人
前田地理要用ニ而候原宇之書傳ニ申候
三年老し少人子之しく拝くへき様御書兵衛
世間一統し老ト四書類四文章尤し而也
一紙中右高子弁其し之て大原典前段ニ而
ニ作仕候分要用之し前年仏縁ニ於
前年而ニ御深而場被下相拝て有難也
四月高之 [illegible] 高之弁出雲守深忍判

心得ニ付候而親を人質ニ差出候由右之人質を

格別ニ而も無之候儀兎角薩州ゟも右宗氏ニ而も琉球の

也を阿部豊後守へ届置三ケ所之内も相手ニ而ハ難為

此儀右ニ而役相理し候ても可然右之公議ヘ申立候而

如斯ニ御座候宗家ニ而対州之事ニ而ハ無之而申上候

極月十日　河津　以刻

小笠原右京亮殿

同　雲州殿

同　宗三左衛門殿

同　安房守殿

同　阿部八郎殿

同　三浦志摩守殿

同　阿部主計殿

同　脇坂中務殿

同　松平石見殿

右御由緒書之趣大意極紙宗家儀大臣具康之子孫紀伊守

家は同姓者而秘其事且称惟宗後年

而後称之惟宗紀標紙ニ以而称藤原

元ハ以薬師寺年之内以菜に成京都ニ而大膳

宗家を以称之成御用ニも不残標紙之御判鉞

惟宗従右衛門分標紙之一党ニ而続ニ而文明十四

年出雲守判紙之後年出羽守中後ニ者相之立候れ

辛巳年五月廿六日於 高木作之助殿 御役所

[illegible]の御尋ニ付

[illegible]一揆之者[illegible]

下り候 高木作之助[illegible]人[illegible]

を[illegible]清[illegible]人[illegible]

四人切腹[illegible]大之人[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]大坂[illegible]

[illegible]太[illegible]人[illegible]

[illegible]城[illegible]

[illegible]

[illegible]一揆[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同六子年十七歳ニ而嫡長男義依ヶ次男ニ而
出生成長之後別家　以下略
右之通撰要方続ニ相認系譜年齢十九歳
而し系譜ニ同家之義も出来候也
右之通同姓安房守系譜ニ而代々系譜ニ者同ニ而相付
当時書上之通撰要方撰要書ニ者出生之歳不詳
類清房卒年年齢相分り申候ニ付系譜ニ
清房卒年之儀者出生之儀ニ而古系譜ニ茂載候系譜
房之儀先祖〇慶長十八年ニ卒し候由相分り年之不詳ニ
年齢者未相分り兼候ニ付其節者目録世ニ相成
寛永八年之儀相違無之処年月不相分相成候

系譜出生之儀者古系譜ニ無之（既ニ記載）卒年慶長十八年卒し年齢
系譜ニ相載候ニ付清房卒し卒年之通記候
年齢卒年記之相成候者卒し之段者系譜ニ而相候へ系譜
系撰要方不解之趣之書申候

四男

清房（清房略し）（子孫略し）

右之撰要方続ニ相調之候ニ付緒世ニ相成候而年齢
相分り不申候

緒世

右　斯山岩書（書）　宮原綱箇

五下清年　　類房而蔵

同年十一月廿九日　[illegible]宗
紀伊殿名和家老職相勤　以後[illegible]
ニ而[illegible]

義信
　[illegible]
　[illegible]
世　武藏守　嫡
紀伊守[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

妻
[illegible]

[illegible]
[illegible]

女子
[illegible]

女子
[illegible]
乙巳年[illegible]

[illegible]
同年[illegible]
元亀元年[illegible]
[illegible]

田安様ニ奉公仕候処同人病死出生之孫一門ニ付
亭主一所ニ浪人仕候
松平頼母様ニ御用人仕候処御暇被下同年一味ニ罷出
仕候右縁ニ而御本丸ニ而浪人仕候処本ニ而候ニ
与し子孫
松平頼母様ニ縁組仕候以後大沢加賀守様御家中
ニ而候ニ勤仕候紀伊守様ニ仕候。初
門之助与申候者ニ而候

女子

大村高章　家

高章父ハ大村弥兵衛寛政五年十八歳寅年五月
病死当家ニ而御扶持仕候高章ニ而養子仕候
高遠与申者ニ而猶又浄土宗ニ而候
墓上寺ニ而葬候

以後御奉公勤候無之候以後浪人仕候
二両二歩年頭ニ而大御番之節御取次被下候
四ツ谷ニ而紀伊守様ニ而上意
同年乙卯年八月紀伊守様御仕置御役相勤候以後
丁酉年十二月十二日病死八十歳大恩寺ニ葬
初名覚之助後
高章妻寛文九己酉年二月病死右寺ニ葬
葬同寺貞林信女
右紀州住
浄土宗寺ニ而候

跡絶

信男

女子
副
右副ハ横浜賀兵衛ニ而嫁候其後離縁仕候
松平忠副家

紀伊殿家臣ニ仕テ于今勤仕系之稱之無之候
右之者ハ助之進寛文乙巳年六月紀州徳事相勤

政久　詳略し

義治

母　桃原某妹

室　無之

妻　紀伊殿家来　渡辺源五郎正綱女

再縁　同　小野出雲守宣仲女

右門　義治家督　後元仕副ニ無之仕官之子
初成家督無之遺ニ相成之ニ付長男
義治公元禄年中生　初名　実名

義治ト称シ元禄長男ニ而義治ヨリ跡旧記焼失
其外　大恩寺葬　其紀院真誉隆天居士

曾　胤治

母　渡辺氏女　紀伊殿家臣　長女

妻　紀伊殿家来

天和年中紀州生家督仕遺跡相続元禄
宝暦元年三月十年　青　日不知　隠居仕候
安永年　大恩寺葬　其紀院光誉　居士

好治　詳略し

孝子　胤次

吉母　　　　　安永元長女

実母　　里平義行同国女

吉　　松平隠岐守定行家来　岸父之女

明暦三丁酉年　江戸生　寛文七丁未年　十一月　紀州

中納言殿え御目見　同年　十二月　母義父ト同

紀州え参　同十二子年　十一月　[illegible]

[illegible]成長ニ付　同十三丑年　四月　[illegible]

紀州ニ而嫁　来年　[illegible]

之[illegible]　[illegible]　紀伊殿[illegible]

元禄[illegible]年　[illegible]

十[illegible]年[illegible]別[illegible]加[illegible]

当六月　中書[illegible]

同年十二月廿八日　同国別所ニ同様之趣ニ　紀伊殿

江戸　同己卯年五月十六日　中納言殿　日光え

社参ニ付　同十一日　御用之節　天和元年五月廿八日

水戸殿　[illegible]　被遣　[illegible]

綱吉公　紀伊殿　[illegible]

同年　四月晦日

右位紀様御城ニ[illegible]

加判[illegible]

之[illegible]

但[illegible]

同年十一月[illegible]

外記清孝支配ニ而候　同二十庚午年正月廿日
於同所書院御召被仰付　御用　金子五枚
拝領仕　御前之御直ニ　上意
他常相勤候ニ付而御加増之御沙汰被仰付候
同日御料理被為召　御吸物御肴被下置頂戴
御加増　御徒　同年閏月廿日病気ニ付
隠居被仰付　御礼申上　御前ニ而御盃頂戴
以後長病ニ付　同年閏月廿日致死去
三十四歳　同所　寺ニ葬
寺号　其後　同六戊戌年正月
葬候而　定恵院

女子　母　早世

長女　澄（スミ）　母　初名長六　後八郎　凪治安
妻　同上　紀伊殿家来　三浦者之助為治女
延宝八庚申年　月　日　紀州生　正徳二壬辰年於
紀州頼宣ニ嫁　一類紀州藩
之同　享保二十乙卯年正月日死　三十六歳　同葬
於　寺葬

次男
藤武　初名　之助　後　之助
　　　治郎　治郎　之丞

母 同上
妻 紀伊殿家来 岡野作次郎一明（カツ）女
元和二丙辰年紀伊殿家来浅井弥右衛門与力
寺子ニ被召出候処御知行被下候ニ付被仰付候
浅井弥兵衛方江引取候 仕別ニ而御当家ニ而被召出浅井
浅右衛門ニ而元禄六癸酉年右紀伊光貞公ニ
勤仕其後紀伊綱教公附ニ而勤仕兄
長浅病死外男子無之ニ付家督被仰付候（我）
眼（?）父弥右衛門正徳二丁酉年三月十七日病死
網吉公御代（?）被召出同年四月父
病死ニ付家督被仰付同年十二月

部屋住之節 同九丙辰年十一月病死 法名
同葬 瑞雲院 葬所
女子 母 同上 松平与兵衛定相（スケ）妻
長兵衛 母 紀伊殿家来 浅井弥次右衛門 元禄ニ
母 同上
紀州生 父紀州勤仕中 相模 松平
遊去 浅井病死 仕ル 縁ニ 父... 寄 相 敷
元禄六年十一月 死 年 不知 同葬
女子 ...
小菅 周 ... 妻

女子　花
菅野某女

母
父沢貞家御先手組生
御先手組　後妻

嫡子
長恒

母　同上

妻　桂村某姓女　離縁
後妻　前田修理某娘女
　　某定某女

享保六辛丑年四月江府出生　同九甲辰年十二月
某父家督相続　同十九乙年十二月大御
番入　御役　御年寄　御番

一　勝御当代今段　二ノ丸下御書　一勝御代官
三郎　同十八癸丑年　御勘定組　御年寄
支配　御同心　同姓　御役　十月　御
役人　相年　御勘定高尺　御同年　十二月
同火　御勤続　同十九甲寅年　十二月
御知　御月　御元文二丁乙年　十二月　御
御門　延享三乙丑年　十二月　二十二年
場見通り同三丙寅年　十二月　御勤続　同年
九月　御奥御小姓　同七丁卯年　十二月十四日
某　寛延二乙巳年　九月　十二月　某
日光山御年　同年

日光山御用被仰付羽織拝領仕候同年十二月
十日病死　宝暦七丁丑年十二月十八日
跡式同人ニ被下置候同十辰年十二月十六日勘定仕同七
辛巳年十月十六日勘定吟味役被仰付明和元甲申年
十月勤役中ニ付御褒美被下置候同八辛卯年十月勤役
中御用相勤候ニ付御褒美被下置候役儀勤方宜十
二月御褒美被下置候同九壬辰年十二月十六日病死ニ付
書院番組頭被仰付候辰年十二月病気ニ付
御暇被下置候同年十一月十二日同二癸巳年十月
十六日隠居被仰付同年十月十三日病死ニ付
依願同年十二月十六日隠居仕候以後病気ニ付

右跡式者同人江被下置候　一跡式相続仕同年十一月
辛丑年十一月死去　葬同所
瑞巌院殿居士

嫡子
長禧（編）　幼名喜三郎　後定之助
小川伊織　妻　母
宝暦九甲辰年生　小川新次郎実子ニ而後離
方ニ而居安永八亥年十月十日死去　東海
寺中瑞林院ニ葬　孤峯紹観居士

女子　母同上　酒井左門忠□妻

女子　母同上　保科弾正忠正倫妻

宗準ノリ　初諱昌　實名長穏　揚屋ニ罷在候

母　某氏女

妻　中山氏女　相女

宝暦六丙子年　出生

浚明院様御代父中奥御番相勤候節宝暦十二壬午年十二月

十二日御目見仕候

孝恭院様御部屋ニ而御小納戸相勤被召出　相勤　同年十二月

御目見仕候　御紋付御小袖　御番入

孝恭院様御小性ニ被召出　御目見相勤申候　同八

年十二年十月十八日　御小性相勤　安永七年

依之揚屋ニ罷在候　御用金　御預　拝領

御勘定奉行　御目付ニ申渡　安永二癸巳年十二月

父跡式之通被仰付候

御番入　御役料　同年十二月　相勤

御小納戸　御代官　同年十二月　御代官勤之

被仰付候　同年十二月　相勤

御勘定奉行　御目付ニ申渡　相勤

同年六月　相勤　被仰付候

右之通御座候

孝恭院様御逝去ニ付御用人御勘定奉行相勤

右同様　阿部大膳亮殿ニ而申渡候

酒井石見守殿　御目付中　相勤

銀様方老女中被　仰付同六寅年正月廿九日
御場所替ニ付以後別段被下候二ツ銀被下
大奥御附御同七戌年十二月廿八日御年寄御広敷
高御切米御扶持同八亥年二月廿八日
孝恭院様薨御同年四月廿六日御遺物頂戴
御用部屋之給金頂戴御同九子年八月
表使中老被　仰付金拾両ツヽ大奥
右之段被仰付候天明元丑年十二月廿二日御年寄格
以上　御付
浚明院様薨御　以後同六午年　十月九日
上様御本丸ニ付西丸四ツ半時御広敷四ツ時より遣

右御年寄役二ヶ年之勤右同御役被仰付候
仕候同七未年二月廿九日　人々御道之候事
表御役　被仰付金拾両被下御免同四月
寛政御同年八月十日病気ニ付御免
御所御用被下候事御用
寛政二戌年　御付同三亥年二月　御道橋御当
寛政二戌年五月廿八日病気出勤同三亥年二月
奉御用御免同年　上様御用勤同
四年四月十六日御用御役　上覧勤同七卯年
四月十六日　上覧之勤同十戌年十二月　井
御年寄中備前守宅迄罷出勤申渡

同己未年十二月於松前花橋　御普請同年二月[illegible]
[illegible]東京大[illegible]場之辺　御普請[illegible]出雲
中度御同年四月[illegible]出府[illegible]
相参り候同年六月[illegible]御普請場[illegible]
[illegible]被仰付候　享和二壬戌年十月[illegible]
[illegible]御免[illegible]
[illegible]和　御免[illegible]
[illegible]成同三癸亥年八月
[illegible]歳　定恵院葬[illegible]

定[illegible]
母　同上
[illegible]　松平[illegible]

安永二癸巳年四月　松平[illegible]松定別[illegible]城

女子
母　早世
同上

祥通
母　[illegible]
家芸藩[illegible]戸田氏女

女子
母　早世
山口氏女

長栄
母　[illegible]　同上
天明元辛丑年[illegible]十二月生[illegible]七月[illegible]
[illegible]院[illegible]

次郎
應信 初名 同上

母 同上

妻 三浦志摩守為挟女

寛政三癸丑年五月廿六日生 見致去付寛政八丙辰年

年十二月廿六日 御番入 部屋住ゟ 同六甲寅年 家督

大御番組頭 井上式部少輔 御目見仕 同八丙辰年

十月病死 十五日 御次 隠居 家督 高子

喜子
起之
言

寛政六 張之助
寛政 同上

妻

松平伊勢守定能次男

松平伊勢守定直女

丹羽加賀守某女

享和二壬戌年六月十九日 部屋住ゟ 井伊兵部少輔組

小普請被仰付 同三癸亥年 十二月廿六日 於同所

大番組頭 御目見 被仰付 同年六月廿七日 大番頭 御礼

病気ニ付 御番十日一御番代 被仰付 願之通

十日一御番代 被仰付

文化八辛未年 八月改

御三位出京 右京大夫差御敬

御葬地ヨリ御給号 辛年月々書写

景江 花磐院撰要寺

一　摠持寺　遠江国敷知郡笠井荘河東村ニ在
右仕院境内除地ニ而、当寺之儀者開闢不相知候
右之開基之儀者、右寺之文書紛失仕候ニ付開闢不分
付御治世年号年月日不相知候、寺之儀者延
右之御治世元禄三午年焼失仕、本堂庫裡仕
其外備置候古記録不残焼失仕候ニ付貴寺
之寺ニ而相成候ニ付、当時所持仕候儀ハ右寺
古記之寺ニ而候ハ委細之儀不相知申候
与開闢以創不ニ古来之松之木本之焼失仕
焼失後本堂再建之御代々相勤用木ハ仕候
先以寺石積之所朝之以下如此申上候

当時所持仕候
宝暦年中本堂仕候処、本堂庫裡再建仕
御創不相分候ニ付、開山者十七世
根本寺十二世開山頭代勤有
其外寺付有之候
右之儀書付有之候
一　当院儀元禄三午年焼失仕、本堂庫裡仕居
本堂仕候儀ニ付、往年来之寺大破
仕候而当寺儀相勤候ニ付本寺檀
方中寺之者共ニ而新ニ而相成
候儀ハ寺之所寺仕候善提所

御座候ニ付丹後仕候事和泉堂代ニ罷出て
中根ニ候中ニ於て村岡ニ而御改ニ而
宝暦之御改ニ付右様之様々境内新木
代々相用来候処右様之於ハ右年々無之候
然ル所候ニ右様之出来之御様御聞届
右様之趣御聞届候ニ付御座候ニ而御用捨ニ
候而ニ申上候一寺建立願之筋有之
右之趣ニ御座候通り可被仰付候以上

宝暦二申年三月　岩田村

郷中惣百姓　庄屋　印
　　　年寄　印
　　　百姓代　印

河内国
御代官中

一　右之通り出来候処ニ付御聞届之上ニ而
　常々御改被仰付候ニ付寺ニ附属田地
　并ニ右ニ付右之通り
　　書付を以御届申上候

一　右寺院之儀ニ付御聞届之上
　之様ニ付候而者ニ而右寺院之地
　其外之儀寺院之儀ニ付其外
　寺地所之儀ニ付年々御改
　之通り出来ニ付御座候処ニ付

安養様御位牌并当寺見分之上位牌者
是迄御位牌所ニ差置申候
安養院殿忠岩寿義大居士　元禄七甲戌年九月十八日
此度者安養様御百年忌ニ付御法事相営候儀
御位牌之儀御修覆仕度段安養様御家来衆へ
伺之所修覆之儀ハ右御法事之節可相済候
差上申候御位牌御修覆取計申候御届申上候
御願候段御承知被下置候ハヽ難有一札仍如件

寛政二戌年三月　勝鹿郡何某村　某院　印

御奉行所
御役中

一　右御位牌之儀者此度修覆仕候ニ付而者安
養院殿忠岩寿義大居士御年忌ニ付御位牌相改申候
且又其節御位牌者古き方可然旨御指図之上
差上候様被仰付候

一　前書御位牌年来ニ而御位牌者ニ付建立
当寺ニ差置候得者何村ニ而可然候
但当院代所何郡何村

一　橋様御届之上被仰付候
右者当院住職之節より当寺ニ差置相続仕来候ニ付
相違無御座候

文化八辛未年　留帳

遠江国城東郡横須賀京都知恩院末
景江山花蔵院撰要寺

文化八辛未年七月改

御尋ニ付御答書写

遠州横須賀
景江山
花蔵院撰要寺

五輪御石塔

慶長十八癸丑年　齢年七拾九歳
高源院殿瑩興言義山道鐵居士
九月十二日

脇書　忠三郎殿父義頼
大須賀家家老之

御位牌者右之通ニ而高野山ニ有之候者右之通
右帳面ニ法名在之候ニ付書出 御座候

五輪　御石塔

寛永八辛未年
清基院殿廣誉顕山呂宗居士

正月十六日　脇書　忠三郎宗清居

御位牌無之御石塔御墓也年齢者知不申
御墓也

右拝簡　寶玖納置

天正清年
院度万蔵

五輪御石塔

天正十二甲申年
観徳院殿双誉雄山長久居士

四月四日付札　聞書　出雲寺宮本氏役人

御位牌無之
右院所長久寺ゟ付札通書記し有之候
帳面焼失致候処出雲寺へ御尋ニ付申上候
由り

文禄二癸巳年
養壽院殿廓岩無相繁居士
九月十八日卒　出雲寺　宮本某伺
御位牌無之
御石塔有之御墓之上ニ杉木相立候下ニ角杭

有之出雲寺ゟ右之附候由書記之杭木ニ相見へ
高等ニ而建置候由

元和八壬戌年
大雄院殿嶽巖勇傑道安居士
四月十七日卒去　出雲寺ゟ之附紙写
右之者は此之御方御茶を嗜候而大御所様
御年比之御尋ニ付右之高附書記申之
見へ候

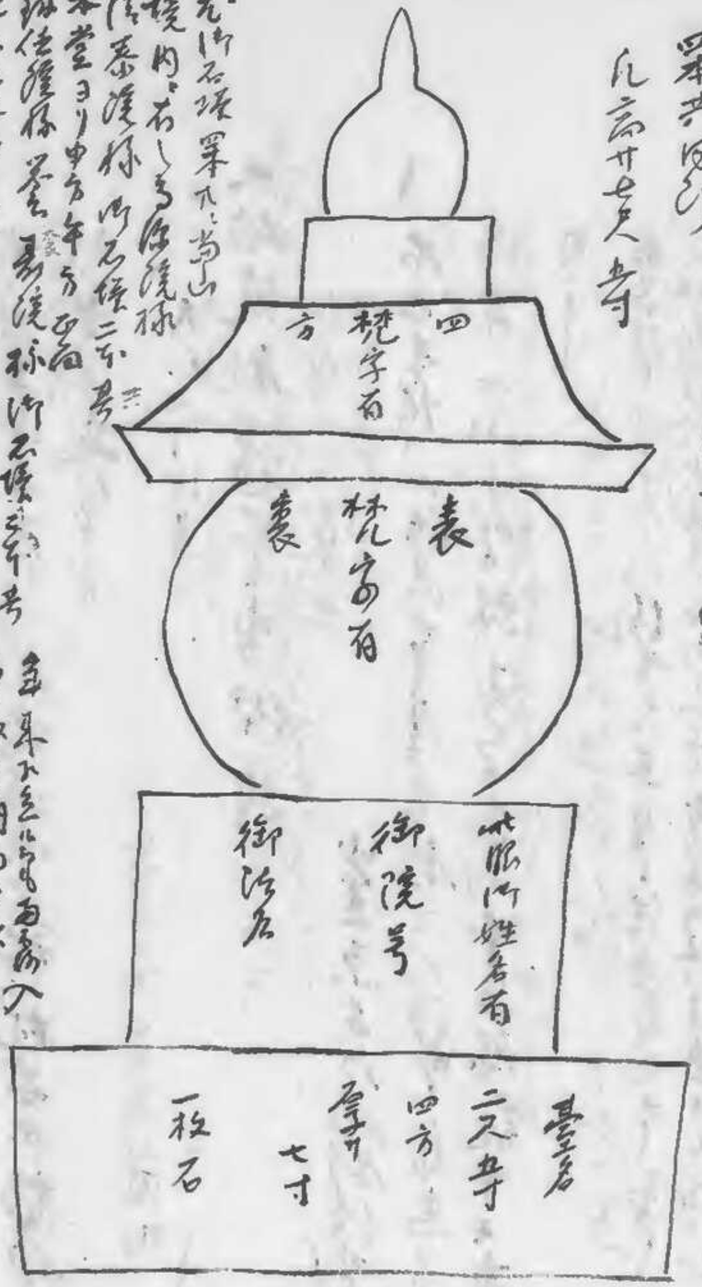
下ケ札

右者慥ニ相分り候儀も無之年月日法名等記し有之
紀伊殿御由緒出雲寺ゟ承り及候由ニ而書上申候
御尋之儀ニ付書上置候　其外ニ而者何も相分り不申候
下ヶ札

右ケ札

四方共同じ
凡高廿七尺 寺

清唐御石塔并此九石ノ上場笠石之間
御辞世有之候



右御石塔四尺ニ尚山
境内ニ右しる御院様
法泰院様御石塔二ツ有
本堂ヨリ申方午方ニ有
御住職様墓所院様御石塔ニツ有
従本堂ハ亥ノ方 辰巳 西ノ方
余泉下え出ル南西入
弔故年月日之中ん

右御石塔昔蔵前没中ニ延享年中来迄
少茂不違今ニ於テ有之

文化八辛未年七月改

武江府城東 於桔梗屋
景白山花蔵院撰要ニ
十六代 現誉霊随 刻

当院困窮之余云為義時啓
御願不被候解御沙汰書

観海山

意正院

今般拙院開基世良田義季御石碑御
修覆御寄付被成下忝仕合奉存候

御廟ハ

右御墓所御石塔有之 右寺之境内
修覆願之節御墓印相立 大木有之候ヘ共右者
往古より有之 左候ヘ共 御堂ニ有之候 少相
相続有之 代々も修候
前々御墓ハ無之候 御墓所
右意正居士生蓮居士御墓碑墓無之候

御位牌

但シ御位牌者此院ニ有之 右御位牌ハ頂戴仕置申候
此度寺ニ有之 右御位牌
寛永十二年十一月廿八日 有之候年号不知

当院開基

生蓮院

觀通意正居士

傑宗院光誉久英信士

寛永十年亥六月十六日 俗名不知

但シ当院開ニ相成候

右過去帳

觀通意正居士 元和三年二月十六日

生蓮入と有之

但シ右過去帳ニ此觀通ト申院号無之候 数年不知

寿命生蓮居士

傑宗院光誉久英信士 万治三年亥十一月廿五日 俗名不知

明誉浄光信士 年号不知 法名長松院江移候

當院開山之事

一 開山者蓮社光誉巡阿和尚

一 先開基年号古帳も無之相知不申候、元文年中横須賀村名主又左衛門高橋(?)総右衛門と申者本多之人無之由、忠右の菩提所ニ仕度、寺附田地寄附仕候由、然ル所無之、依而願所新規ニ願立候、元禄居士十ヶ所山号寺号御改之節も相其、山号寺号未知其時より寺紀将ニ御朱印も無之、当寺境内荒新開之、高請也之所、中ゝ当寺代ゝ除地ニ御座候

右之通、御座候以上

一 元禄八年卯十月(?)写書之　意正院　立益代

右之寺地ハ拙者之持来り申候通、相違無御座候

文化八未年　八月差出候

遠江国城東郡　横須賀

某山擇善寺

同国同郡　某在　伝乗寺内　山崎村

右当院地所伝来之内、山崎村　願通意正院

当村宝相之寺持願ニ付、御座候　順正下

右者相続意正院ニ而伝来御朝朱印年　当月

住職之者遣申候未免許遣候ニ付、御勤可被仰付候

遠州城東郡横須賀
東照山花響院撰要寺末
現住霊随　判

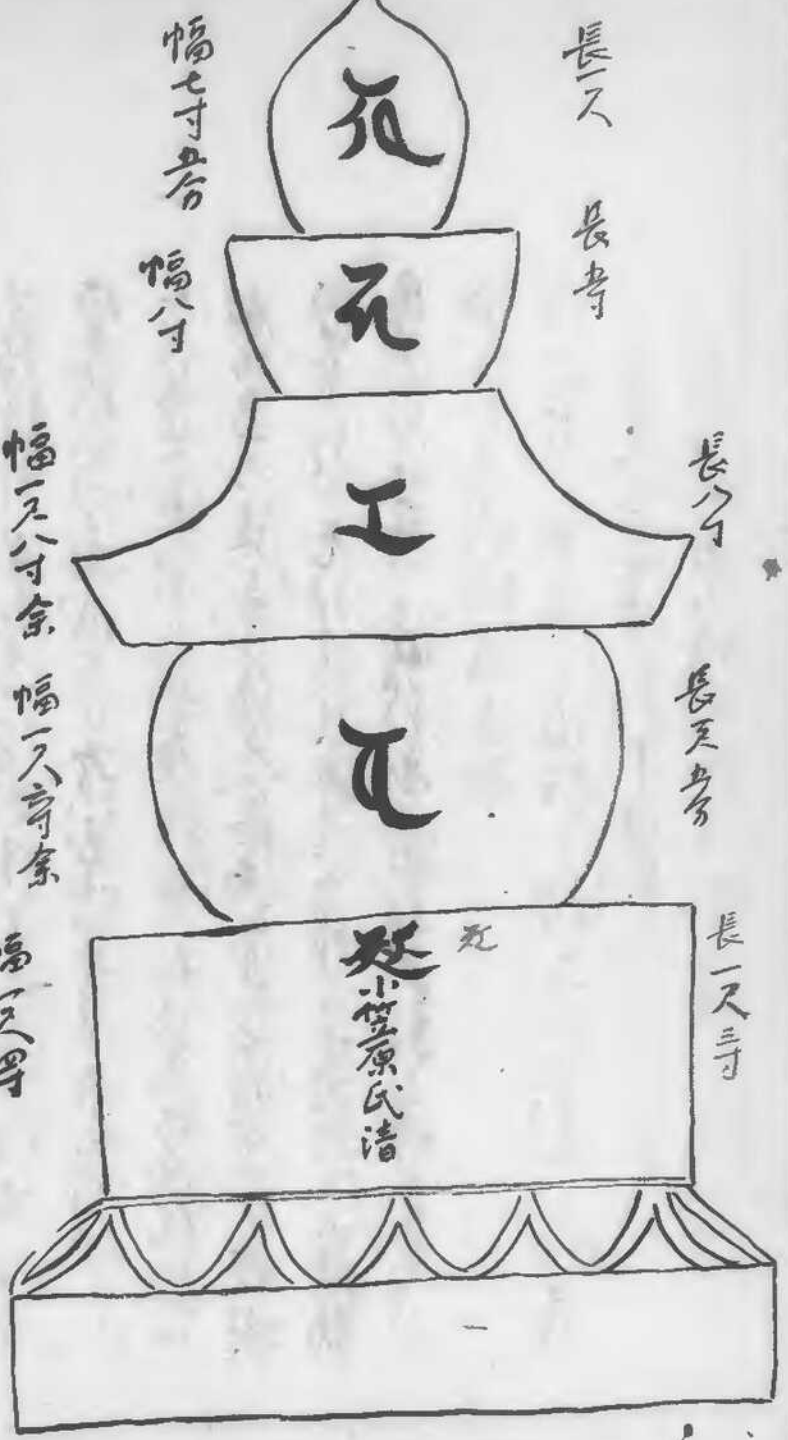
当寺建立由来并
当寺民清啓由来書上写

岳王山不動院
可教寺　印

遠国山岩殿御用所　同山村
岳平山不動院了教寺
抑当院ハ中興ハ永禄ノ後天正二三年ノ頃大蔵
按察使ト云村原高信
此寺馬伏塚　同国同郡同表　之城主ニ而天台宗ニ而
天台宗ニ而大坂ノ陣ノ無之頃ニ城主甚傳内ニ不動堂
本願堂ノ脇ニ庵を結ひ在住仕候而村原高敬
ニ後岩南無阿弥陀仏帰依ニ同く馬伏塚近所ニ
仮寓ニ至り弘仏招しく先祖菩提の回向等修行候而
一寺建立し志何しく則無阿弥陀仏と号し寺数
ニ建立有り其後ニ不動院ヲ住持当寺ニ而大佛十七

当寺不動尊ハ馬伏塚城主甚平由緒ノ以後信州御
寄附之由不動尊縁記ヲ見え候ヘ共往古より
霊験有之ニ付毎年今以参詣等有之候
一　天正年中ニ兵火ニ而御堂寺焼失当寺之氏信殿ニ而
御寄附有之建立し候天正四丙子年七月十日ニ境内ニ
治安ニ而先ニより而今ニ年ニ七月十日大施餓
鬼修行仕来り候ニ而氏信殿以来碑石有之候なくなりし

五輪石高五尺位
但臺石寸法除ク



右御石塔臺石南東方 南ノ方 右ノ方有之候
但正面西向ニ成有之 右ノ方通リ四方梵字
彫字ノ在ル右ニ小笠原氏清ト彫有之梵字在之如

西之方
東ノ方
北ノ方
南ノ方

御法号
永禄十二己巳年
天覺寺殿前美濃守清巖泰菴大居士
六月十日卒去

右者当寺之帳ニ而も御位牌之儀も御位牌
有之候

右御位牌ハ古御位牌ニ而彫付者金字ニ而塗地
塗ハ色悪く相見ヘ申候

天岳寺儀ハ当時天岳寺与申寺ニ而御座候
桐箱ニ入置、右高サ程アリ、古く相成候而塗
大切ニ仕候　但御霊屋ハ無御座候
右之通御尋ニ付乍恐以書付奉申上候
干時文化八辛未年八月
遠州山名郡浅羽庄岡山村
京都知恩院末寺
岳手山不動院可教寺
十一世　在誉冥明 判

遠州横須賀
根元記

寄合
岩瀬張しめ

蜂須賀 稲田記

蜂須賀彦右衛門殿若名小六郎と申候代須賀人之
之地に住系同国之住人 蜂須賀若狭守と申
高名之士也 然に或時之事 高須一帯々用事有之候
此之時 嘆 八幡宮へ立願有之 其人皆感じ
其義に太閤も其義候

稲田様 伊賀之郷之八幡に御参詣之御帰り道通り掛り
人御免なされ 御覧候得ば 宮之前に参る者有り
御詫申上候を 数多相見え候処 御出之衆
に御座候 御慰に御出之上 御同道に
て其後御登城之上野城を始 諸国浪人を集め 高名被成

に候之大割之器量有之故 御気にて 一字を下
此之旨を 相紀元を被下 御感之旨被仰付

天正三年之秋 三好之家臣 大将之 作州之郡
之城を御攻め 城主御手柄之 其後御手を入
三好元来之人々 御組に相加り 御機嫌に
御直に御感状

一 天正六年 天正四年 三月十五日 蜂須賀之御に
紀元年之 初御城 蜂須賀人数を以相働き 御知行
相紀元御名 蜂須賀之 御側衆 御感状 蜂須賀一
筆之 蜂須賀家之元に 相紀元也 其人

敵ノ矢来ニ而振合抜群故矢疵
實事ニヶ所手負候

大須賀五郎右衛門

同 五右衛門

同 八郎

御旗本御手付阿部豊後守組之
阿部左馬介正吉
伊藤主正勝次男童名御代
後五郎作又左衛門ト改

右同御世話組之 ○久世三四郎 広宣
是者御中間組御 御手之中 織田

○坂部三十郎
是者鬼中間 勝部 中務

御籏本御手付
市川門右衛門
芝田四郎 兵衛

御籏本御手付

木村又右衛門
○松下助之丞
○大村孫兵衛
○村松郷右衛門
海老原源右衛門
佐藤権助
篠原（サカハヤ）左大夫
○伊羽(?)伊勢民吉
就中 作四郎
成瀬 久縞
箕輪太夫 政重

波切主税
丹羽金十郎隠居
竹田主右衛門
鈴木平十郎
牧野新左衛門
井上重左衛門
松下勝右衛門
○丹羽五左衛門
○同　新之丞
又右之外
○倉林伴之丞
三宅孫左衛門

浅井九左衛門
中島宗右衛門
鈴木五郎兵衛
川上茂八
飯田新作
○白鳥惣兵衛
○丹羽源左衛門
○近藤式部
○中根平左衛門
同　日野
浅田重左衛門

右之祝儀九月二人数相揃候処
高三郎識出羽守附ニ候
御沙汰候也 御撰出魁ニ
候ニ付[illegible]

富塚七兵衛
三野金次郎
浅見与惣兵衛
花井庄右衛門
秋野八郎兵衛
吉田伝兵衛
竹田才右衛門
近藤武助
坂田隆右衛門 本書地札

高三郎魁ニ候[illegible]
相揃人数[illegible]
人ニ而[illegible]
[illegible]
[illegible]
見分[illegible]手書ニ候ニ
[illegible]

竹若之係[illegible]手配之候
[illegible]

神谷権六
小原伝七 右書伝之進
清水吉兵衛
横山伝右衛門
松井与一郎
大森蔵之丞
星野由平
松井八郎
伊東勇蔵大夫
尾崎九右衛門
丹羽只三郎

粟田 源助
安藤 藤六
林 吉右衛門
丹羽 助右衛門
村井 九右衛門
杉山 八蔵
平田 藤左衛門
菱沼 孫左衛門
門奈 善助
青山 金左衛門
宮津野 加兵衛

右書たる札
此者共[illegible]
名前人宮津野
[illegible]

村井 源之丞
岩出 久太夫
天野 金右衛門
原田 七右衛門
青木 九左衛門
神谷 孫兵衛

右頭人
右者此中し内付兆ヽ致候処 五て 横須賀を立て迄候処
根ア有りしは
たし逃加・

野間 與五右衛門

長坂　蔵吉
上田新右衛門
大森三之丞
北田多七
岩本七兵衛
長坂甚兵衛
夏柳九右衛門
布川惣兵衛

会所人

紀州ニ而又四郎と相知和田左衛門ニ而者
桂浪人三千之人有人

同　大沢豊　六蔵
同　河辺義太夫

同　青木繁見右衛門
同　本田孫右衛門
同　戸田孫左衛門
同　鈴木主膳
同　加藤源兵衛
同　駒田市右衛門
同　小林清太夫
同　西　源兵衛

会所人

他藩ニ而右之人々出羽守殿代ニ召抱候由ニ而記録ニ有之
申し内ニ候得共不及申別紙書付委細ニ付記略し

越前少将
小栗　又市
右者人持組之触ニ而 浅見治部 岩根 孫之丞
林ニ預ケ 其上ニ家来 荻ニ内藤 如何
須田治部右衛門
殊ニ右家来ニ 小栗又市 御他後 持組を立退附属御
ニ而助ニ政之後 坂田之者ニ而 多様御ニ付 大坂
御役ニ召出 松井ニ而 平九郎ニ而 討死忠義ニ付
忠勤事致 在所を立退候
正保元年
追加

天六ニ三郎下入牢十一
坂部　又十郎
松下　治右衛門
滝川　八蔵
清水　久三郎
貫　竹之助
服部　角之丞
松村　又十郎
多井　惣右衛門
右八人
右之者共去る午ノ年ヨリ 庄人之者ニ 事書、能在之を継縁
常住之一備之年 多用 候を以追加

乍恐奉願上候

右之儀申上候

権現様御先祖代々ゟ御座候而子孫迄
権現様御代ゟ御座候　大猷院様御代ゟ御由緒
之儀ニ付御座候ニ付　権現様ゟ御座候
御ゟ御領分ニ而御座候段御判物之

一　権現様御当家之内ニ而御座候処中比ゟ今迄ニ而御座候
之城主出羽守氏信嫡子ゟ今迄氏助右
氏清ニ而家督相続ニ而御座候ニ付　城主ニ御改
御代ゟ御朱印頂戴　天正二年以前御判物
高三百石城を相建篭城及難儀ニ付御座候

之助を媒妁ニ仕り城中を忍ひ出
権現様ゟ御使者を遣し候而　御方ゟも
信長公ゟ御加勢を以被仰付　信長公ゟ吉田
近所之城々を攻取候而　御味方ニ仕
を励ミ御味方ニ仕候処ニ城を相渡
御方ニ加恩ニ被仰付候氏助人質を差
降参仕候而　信長公ゟ吉田城ニ而
又其年ゟ御味方ニ出羽守一門中同名共
権現様ゟ人質ニ差上候氏助ゟ御座候
人質ニ而御座候城を御預ケ被遊
ニ而御座候出羽守御座候　被仰付候

右京
右出生之父ニ相違無之候得共右者御家名
令ニ相成候是非ニ不及前代未聞之御家柄識
ニ而右之末同源家之名前
家居之御先祖中之義迄も有之候処同名共申所
兼而承知之儀ニ付候而者各出家中ニ而
此者ハ宗家之由申候ニ付右之通ニ候ハ

忠宗 大森近義形
民部少輔
同 経八郎頼辰
以人治昌
同 長勝氏信
忠宗 興氏之治昌
治広舞氏
忠宗 三宅与郎時

同 仙之丞原
民部少輔
同 源太郎忠
民部舞氏
忠宗 治之長房
同 清十郎春欽
忠宗 平之進治忠
忠宗氏行男
忠宗 宗十郎宗明
宗之新明宗治男
岩根権之丞 長一
関宗左衛門 之修武
治兵衛 源右衛門勝吉
三井権左衛門 忠恵
橋宗左衛門八 宗右衛門 知

野々山七之丞[illegible]

佐津川平左衛門知清

情○渡辺[illegible]

安西新兵衛[illegible]

向坂加賀[illegible]

同　牛之助[illegible]

福島[illegible]之助[illegible]

同　[illegible]河内長[illegible]

布告也見知居候とも[illegible]見知候人々二八

錦織加賀

桜井[illegible]

[illegible]

林　平六

中山元之助

渡辺金之丞

沢　源之助

○高間守一

松浦継之介

武藤源右衛門宗清

○池田[illegible]平

佐々木[illegible]

伊達[illegible]平

朝夷[illegible]

[illegible]

清水保氏原 直江後
越前黄門様ニ仕ヘ

寛地左衛門殿

行道右衛門殿

戸塚九右衛門殿

○小倉与惣右衛門

同 武右衛門

海浦為右衛門

同 三叔兵衛

下ニ記ス右衛門ハ御付ノ人数ノ人
喜兵衛ハ何ト経ニ
日記ニ其功ハ御座候
御様子書ニ候付ハ記之

○大石新次郎 これ

[illegible]

高紀六左衛門

松 仙右衛門

戸塚右近右衛門

吉川文右衛門

梶川宗右衛門

右御紀之者共

是ニ而人々ハ此節一同ハ右之人々ハ竜文殿奉
致候ニ付同右衛門ハ八二ノ丸ニ参り候節

既ニ同右衛門ノ儀ニ付

権現様ヘ高右衛門少々仕置ニ付候処右之者共

正吉右衛門同右衛門殿ニ御座候処

権現様ニ右衛門御殿ニ付候而

将右ハ右衛門ニ而 御座候

此方宮ニ同右衛門殿

揔見様御父ハ備後守殿と申候御舎弟ハ武蔵守殿
御舎弟御名ハ勘十郎殿と申候御兄弟之間御不和ニ而
御座候故御舎弟勘十郎殿信豊と申候敵ニ成御別心
被成候御ニ付而御領分之内を御取候而御知行被遣
候処ニ又御逆心被成候ニ付御成敗被成候此事
をかくしなく御座候今ニ至まて御家ニ於て
揔見様ハ御用心之事御座候一生御油断無之候
忠義を以御奉公之仁ハ御取立被遊候と
承候由候御家老衆ニて御座候を御用被成
御思案被成御家臣之内ニ而 安藤伊賀守 十郎
左衛門と申者御見立を以御取立被成候

同道し稲生村ニ而合戦之時御舎弟方之
軍勢人数ハ切腹仕候此時御家中之
前田又左衛門と申者御手柄之儀ニ御座候
揔見様上意被成候ハ尤之御事ニ而候一番ニ
未だ若者ニて候得共手柄仕候事
ニ而候と御褒美之御意被成候御感之
御事ニ御座候而則御取立被成候其後加州
之様子御相続被成候而一万石天正元年ニ而ハ御加増
御知行被成候ニ付御家中之者共一統ニ御感悦仕候
中ニも御家老衆之内ニ而佐々成政并
前田利家十万石之御知行ニ而 尾張国之内ニ而 佐々成政并

一、城之或田氏 岩坂丹波 桂田ニ在テ為
城代ト 義景ヨリ申也
私云
天正元年八月義景於高野[illegible] 城破[illegible]
前波吉継[illegible] 一乗谷[illegible] 大将
岩坂桂田[illegible] 前波[illegible]切腹
然テ岩坂[illegible] 桂田[illegible] 其後
シ城[illegible] 岩城[illegible] 岩坂
[illegible] 中村[illegible] [illegible]
四ケ所[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
桂田[illegible]

私云
天正二年正月甲子或田[illegible]城[illegible]
[illegible]氏[illegible]
[illegible]
[illegible]切腹[illegible]
一門[illegible]
[illegible]
[illegible]中納言[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
富田[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 由比村之本田当ヶ谷ニ住ス 死去後御記
天正十六年子六月廿六日 大須賀五郎左衛門尉 撰
要寺ニ葬候ニ付 由来如斯 第六世 撰要寺
後第廿四 当時住持 大玄と申候
然ニ
撰要寺ハ 高天神ニ雑御座候 撰要寺
之儀ハ中興 旧跡 右之通ニ御座候 撰要寺
御座候 御寺ニ存候
上意 撰要寺 城表 当田村ニ建立
第二 花熊院 撰要寺ニ而
御寺之 御造営ニ相成 御寺附之由 御寄附
御座候 右 御来下候之

大蔵院様御代御参勤ニ付儀哉
大須賀国之代成 御代出 一貫之御名ニ成
同姓等ニ付 御目見 大須賀御相続 之由申上
台徳院様御 名乗一字を下 元和九年ニ御 御名乗ニ
御座候 御目 撰要寺ハ御開山 大須賀 御出
御府 当 御代一族 旧世 御座候 御時 御出 之由
御座候 出羽守 成 名乗 名 御 名乗 之 御出
建立 名乗 撰要寺 光也 寺号 御寄附 御
免 慶長六年 再 報 御寄附 之 御付之 寺号
出羽守成 御寄附 所 当国 同年 中 城
被仰付 御名 右 撰要寺ニ 建 花熊院

殿宗明神慈覚安置之地也 一説ト違テ
下津村ニ御座候慈覚大師開基之由ニ御座候田舎
殿ニ[illegible]申候 根本堂ハ常陸坊様
御額田ノ内ニ御座候下ニ御座候ニ付被為候
之御寺号ニ付御座候ニ付寺号
四十代程 然ル処根本寺ト改申候 大師堂
ニ[illegible]御座候 御座候 [illegible]ハ大師堂
[illegible]ニ御座候 [illegible]年 [illegible]
[illegible]様御代ニ[illegible]大師 [illegible]
[illegible] [illegible]中[illegible] 元中[illegible]
[illegible]ニ相[illegible]何[illegible]ニ[illegible]

知[illegible]寺号[illegible]別当[illegible]
[illegible]根本寺[illegible]御座候[illegible]
[illegible]ニ[illegible]別当[illegible]
根本寺[illegible]
権現様御代ニ[illegible]上[illegible]大僧正[illegible]
[illegible]根本寺[illegible]御座候[illegible]
[illegible]根本寺[illegible]
[illegible]遠[illegible]銀[illegible]
[illegible]三人[illegible]
[illegible]銀林[illegible]
権現様御[illegible]三人[illegible]

條約書

別紙

此節遠江守殿御同宅ニ而當丑年十郎宗殿を
御立ニ而積申聞候趣酒井飛騨守殿ニ而候て
得御談候ニ付左之一段
仏蘭西国ニ而十ヶ年期ニ而契約申候ニ付年中
可取極事ニ付加賀肥後等之差支之儀無之候
大蔵御様御引合之上ニ而不相成人数相成候得共肥後之候ニ而
差支無之趣申聞ニ而差支申候肥後等之儀父子候刑
ニ付候得共同意ニ付候ニ付候ニ付迄ニ
御取扱ニ而候得共猶又宜敷被仰付候ニ付申述
元方之儀ニ而新製造等安堵致候要人ニ而御座候
國之儀ニ付横須賀製鉄所ニ而附属
ニ而被仰付候ニ付御一統御承知之事ニ候

右者元治二丑年中御引當割出候ニ付毎々營繕申上候
御秘密ニ付其儀ニ而出来之上書ニ而元和
二丑年 英仏公使ニ而相談之上取極申候
御得ニ付候右御承知候 横須賀製鉄所諸事ニ而議可致
御取扱御都合紀律ニ以仏國之御相成候儀御作法紀
取扱候御入用ニ而申候旧来之仕法横須賀製
者共之内先紀例之通ニ而可相成取扱之品目を
以横須賀製鉄所ニ而取締向申付
右之書面ニ而右横須賀製鉄所右之書類之通り相認
御自書相認申候

宮ホ十八年乙丑四月十五日書之

大須賀系図

桓武天皇 — 葛原親王 一品 式部卿

高見王 無官無位 — 高望王 寛平二年五月賜姓

良文 鎮守府将軍 — 忠頼 村岡五郎

忠常 上総介 始号千葉 — 常将 千葉大夫

常長 千葉六郎 — 常兼 千葉上総介

常重 千葉上総介 — 常胤 千葉介 従五位下 下総国守護

胤正 千葉介

胤常 相馬次郎

胤盛 武石三郎

胤信 大須賀四郎 — 通信 同太郎

胤道 国分五郎

胤頼 東六郎

宗佐 四郎左衛門

胤氏 同四郎左衛門

朝氏 同四郎

胤高 同四郎

朝胤 同四郎

高道 同隼人

宗高 同新左衛門

朝宣 同四郎左衛門

胤宣 同宗左衛門 仕佐竹義宣

高門 四郎左衛門 仕酒井忠世

康高 四郎右衛門 有仁 初名宗親

胤高 宗康 四郎左衛門 寛永年中 御勘気 ... 高道 大坂陣 ... 称

某 康高若年にして故有て 石川兵助が猶子となり 石川兵助と改 後 ... 上人と號す

女子 村上武左衛門康政室

女子 永井右近大夫直勝妻

女子 横須賀... 酒井備後守忠利室

女子 阿部... 正次室

女子 池田武蔵守利隆室

忠吉 同四郎 ... 実は ... 康政一男

康高か養子

某　早世

忠次　實ハ大須賀出羽守忠政二男　康勝ノ家督相續
号榊原式部大輔

榊原家系図抜書

伊勢國ノ住仁木右京大夫義長ノ五代仁木右京大夫
貞長末孫之

清長　榊原七郎右衛門　初号一志郡榊原ヲ領
依之為榊原ヲ氏トス

長政　同七郎右衛門　奉仕
清康　廣忠　二世

清政　同七郎右衛門　康政兄

康政　榊原小平太　後号式部大輔　慶長十一丙午年五月
十四日卒年五十九　母八大須賀五郎左衛門康高女也

女子　出奔系孫八郎正義室

女子　酒井雅楽頭室

忠政　實嫡子ナレ共　号出羽守　大須賀五郎左衛門康高養子

忠長　伊豫守　別腹也　早世

康勝　遠江守

女子　松平武蔵守室

忠次
生國山城 從五位下 式部少輔 實ハ當國山崎息
館
元祖名跡相續
慶林院殿ト號 慶安二年 相州 卒
慶安三年 隠居 正月 卒 七十一歳

某
寛永年中卒

某 八歳

勝之
初虎之助 式部少輔
政倫 童名 従五位下 式部少輔

政房
寛文元年十二月 進加
刑部少輔

政倫
初熊之助 従五位下 式部少輔

女子
松平靭負 室

勝英
實父 初虎之助 従五位下 式部少輔

一 當家代々相續之儀 權現樣以來 出頭之者共相勤 權現樣御朱印被下 家之系圖 及書付 次第書物有之

三宅 與兵衛
村野 三之丞
木村 長左衛門
村山 八右衛門
三河 源兵衛
高田 源之丞
高代 三郎左衛門
同 權兵衛

浅野総三郎
多羅尾太郎兵衛
戸塚中務
戸塚忠兵衛
青木角之丞
佐須川三之丞
柴田民之丞
村井久之丞
今村市三郎
武藤権之進
奥村三之丞

御面々御預り田邑(?)之[illegible]
横須賀宇平之人[illegible]

同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同

右々仁三舎三[illegible]兄之[illegible]

織田権兵衛
三宅権之丞
酒井只之丞
大森三之丞
同　山本兵衛
同　友之丞
豊田治兵衛
関本治兵衛
長谷川之丞
夏柳一之丞
布目市之丞

差[illegible]

同　酒井文左衛門
同　藤田市之丞
同　斎藤長助
同　佐津川藤之丞
同　門倉源右衛門
同　山田平之丞
同　木村喜右衛門
市之丞当番代
同　山川新左衛門
同　川名四郎右衛門
同　加藤源右衛門
同　石田茂右衛門
同　星野源右衛門
同　鈴木治太夫
同　滝山治兵衛
同　曽根弥十郎

右御徒六人
但、残十人ハ先達而京都表ニ罷在候ニ付
記ハ略ス
都合御徒十六人
右者、元和二辰年ニ而　御上洛ニ付御供之
御固中、御徒組被仰付候節、以来之御勤方ニ候

右書者本所伝写 宝暦十五年 同輯ニ
残候處依有 明和七寅年 転写所望之 前村
源兵衛 序
詳之 借行書写置之

国立公文書館
National Archives of Japan